

北海道浮魚ニュース

令和2（2020）年度4号

2020年5月27日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5月15日～22日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸（151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカは低密度で分布していた。
- ・全漁獲調査点の平均CPUEは昨年を上回り、過去5年平均を下回った。
- ・魚体サイズのモードは昨年よりも大きく、過去5年平均より小さかった。

1. 水温分布（図1）

漁獲調査点5地点の表面水温は11.5～13.7℃（昨年5地点13.4～16.2℃）、深度50mの水温は8.8～11.4℃（昨年5地点5.2～11.0℃）の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる深度50mで10℃以上の水温帯は、東経139度線付近から沿岸側に広がり、調査海域の北西側では水温が4℃以下まで低くなっていました。また、津軽海峡周辺は昨年より暖かく、50m深では10℃以上の水温帯が北に広がっていました。

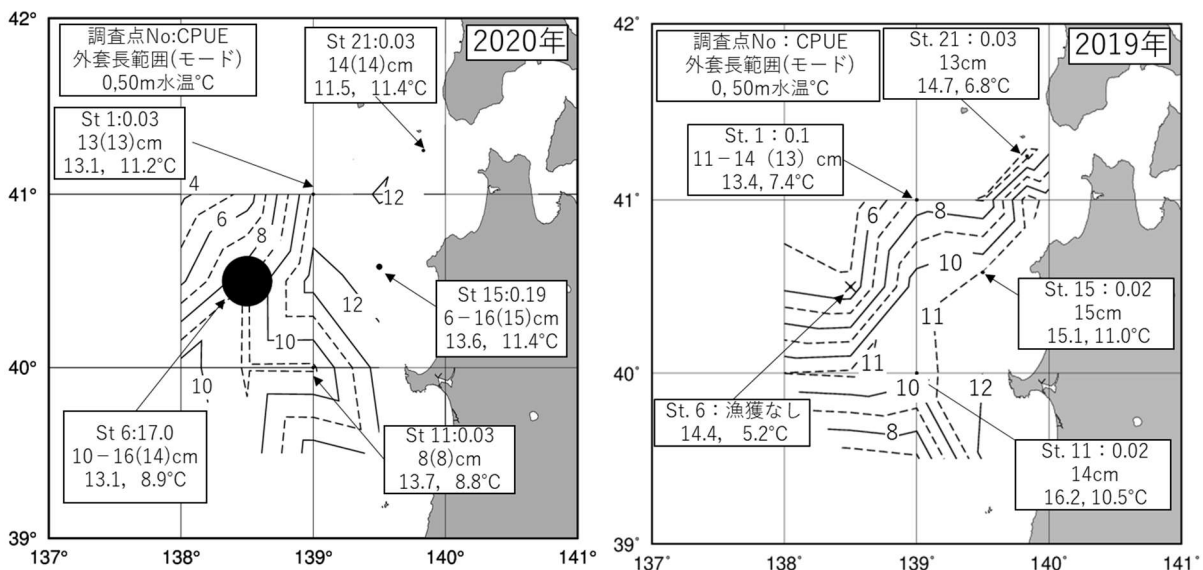


図1 スルメイカ漁獲調査結果（2019年との比較）。●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例（1以下は同じ大きさ）。×は漁獲なし。等温線は深度50mの水温。

2. 流向流速分布

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における航路上の流向流速を図 2 に示します。水温分布と照らし合わせると、対馬暖流は沿岸に沿う流れと、沖合からの流れが壱作崎付近で合流して海峡東側に広がり、津軽海峡へ流れ込んでいました（図 2）。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou/>

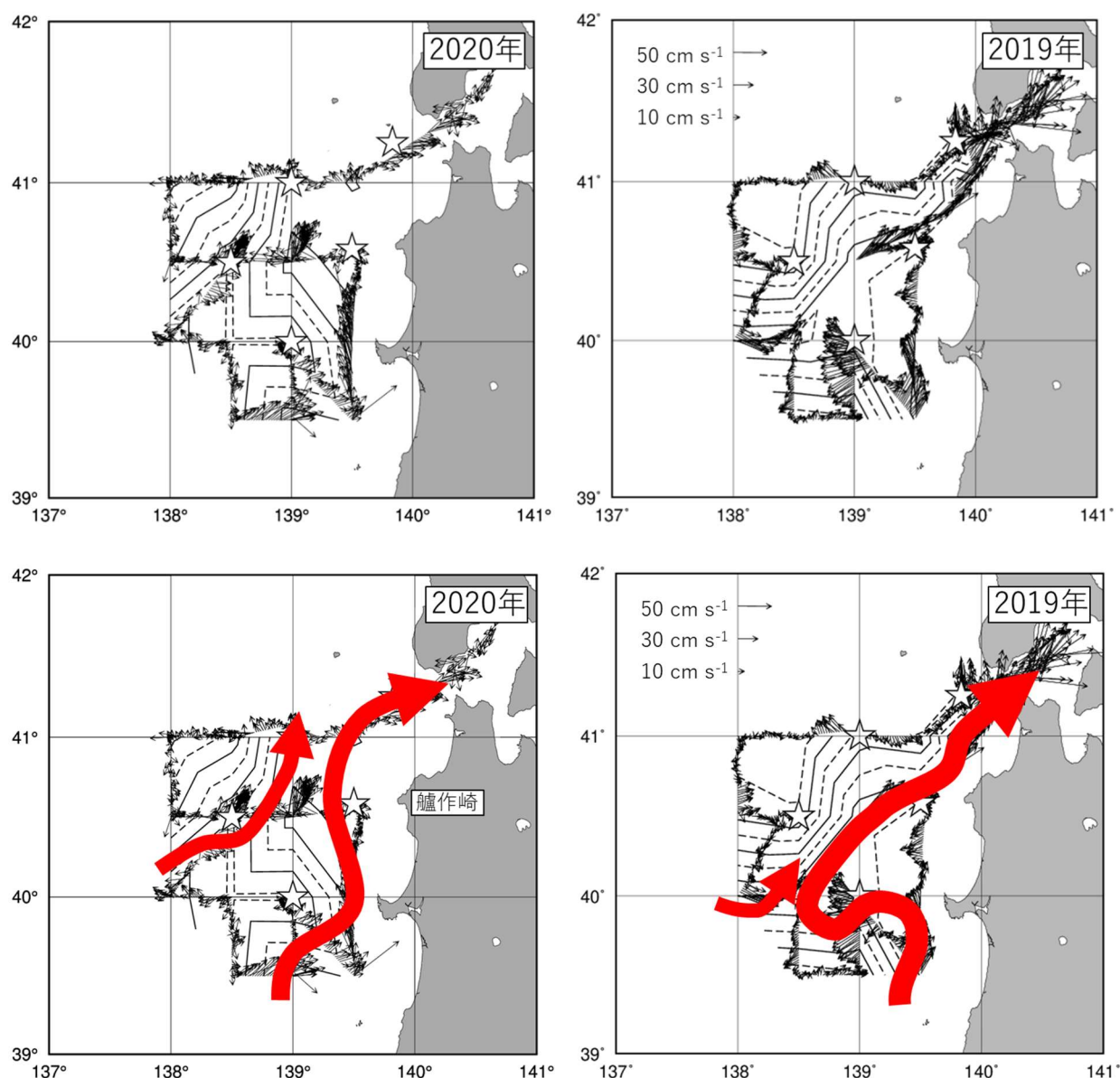


図 2 2020年と2019年の深度50mの水温と流向流速図（上段）と対馬暖流の模式図（下段）。等温線は深度50mの水温。☆は漁獲調査点。

3. スルメイカ分布密度 (図 1、図 3)

漁獲調査点 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数) は 0.03~17.0 (昨年 0~0.1) の範囲にありました。最も CPUE が高かったのは青森県西方沖の St. 6 で CPUE は 17.0 (昨年は St. 1 で最も高く、CPUE は 0.1) でした。また沖合の St. 6 以外では、漁獲はあったものの、CPUE は低い結果 (0.03~0.19) となりました。

漁獲調査を行った 5 地点の平均 CPUE は 3.4 で昨年の 5 地点の平均 (0.03) を上回りましたが、過去 5 年の平均 (6.6) を下回りました。

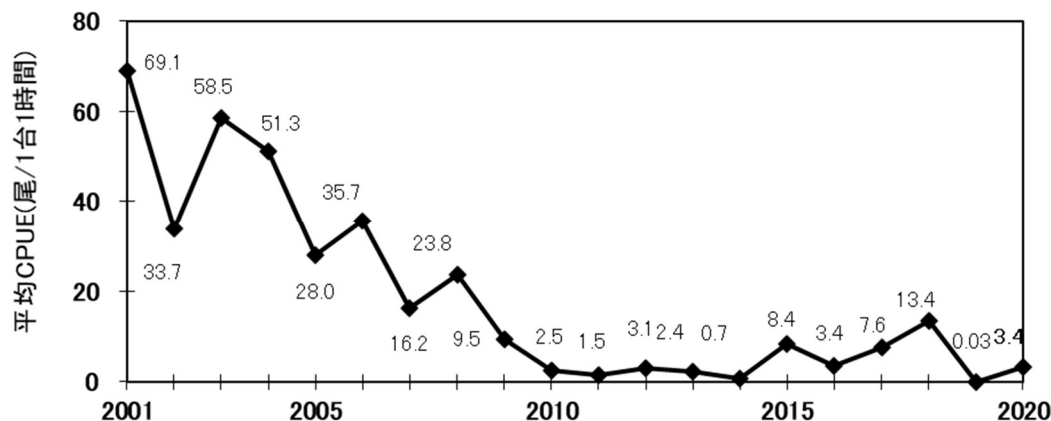


図 3 松前以南 5 地点の平均 CPUE の経年変化 (2001 年以降)。

4. スルメイカの大きさ (図 4)

今回の調査で漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は 10~16 cm (昨年 11~15 cm) でした。最も多く漁獲されたスルメイカの大きさ (モード) は昨年よりも大きく、過去 5 年平均より小さい 14 cm でした。

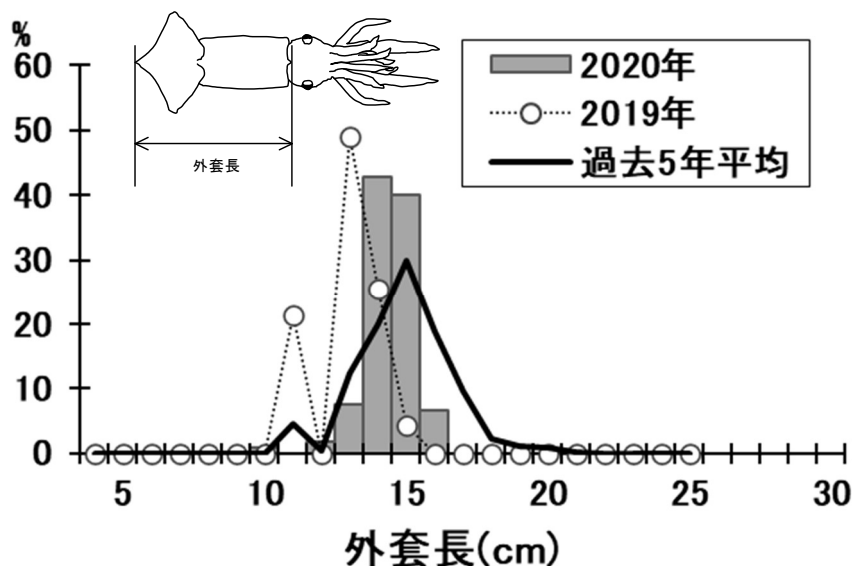


図 4 調査海域全体の外套長組成。

5. 標識放流 (図 5)

今回 St.6 において 573 尾の標識放流を行いました。装着部位はヒレ (耳)、装着したタグはオレンジ色のスパゲッティータグ、カタカナで「ハコダテ」、数字で「001~007」と記載されています。

標識のついたスルメイカを発見した方は、最寄りの水産試験場までご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

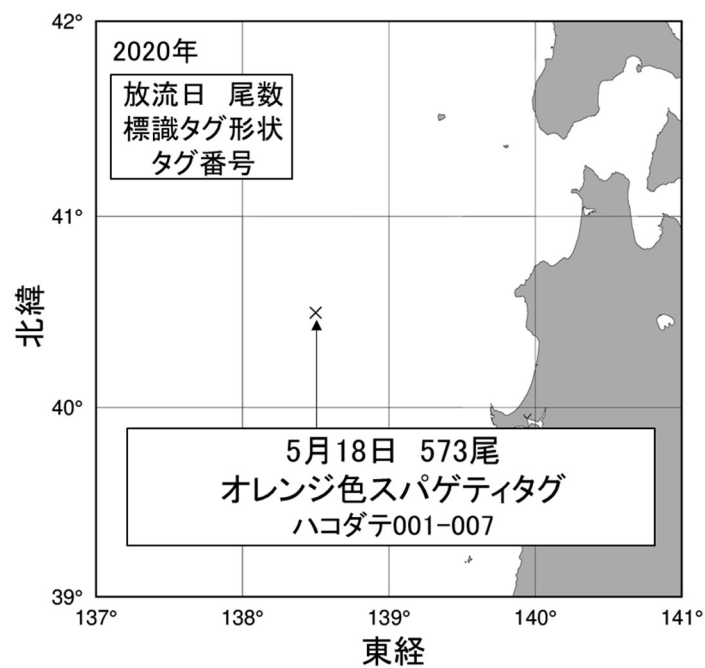


図 5 標識放流地点と標識情報

(函館水産試験場調査研究部、TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)